

令和5年度

公立大学法人横浜市立大学の業務の実績に関する評価結果

(原案)

横浜市公立大学法人評価委員会

令和6年8月



## 目 次

< 公立大学法人横浜市立大学の法人評価の概要 > .....	1
< 令和5年度の業務実績評価 > .....	2
1 評価概要 .....	3
2 項目別評価	
I 教育 .....	5
II 研究 .....	8
III 医療 .....	10
IV 法人経営 .....	12
V 自己点検及び評価 .....	16
VI 地域貢献（横断的項目） .....	16
VII グローバル展開（横断的項目） .....	16
参考資料：法人による自己評価 .....	17

## <公立大学法人横浜市立大学の法人評価の概要>

公立大学法人横浜市立大学（以下「法人」という。）は、市会の議決を経て市が定めた中期目標の達成に向け、法人自らが策定した中期計画や年度計画※に基づいて、自主自律的な大学運営を推進する。また、法人は中期目標期間及び各事業年度における業務の実績について、横浜市公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）の評価を受ける。

評価委員会は、中期目標期間並びに各事業年度における評価に当たって、中期計画や年度計画の実施状況を調査及び分析し、その結果を考慮して総合的な評価を行う。また、その評価結果を法人に通知するとともに市長へ報告し、公表する。報告を受けた市長は、評価結果を市会へ報告する。

※ 令和5年6月の地方独立行政法人法の改正により、公立大学法人における法定上の年度計画及び年度評価は廃止されたが、横浜市立大学においては、PDCAサイクルとしての有用性等から、引き続き、年度計画の策定及び年度評価を実施することとしている。

### ■ 評価の種類

(1) 年度評価：各年度計画の実施状況を確認すること等により、業務の実績について評価を行う。

#### 【評価の視点】

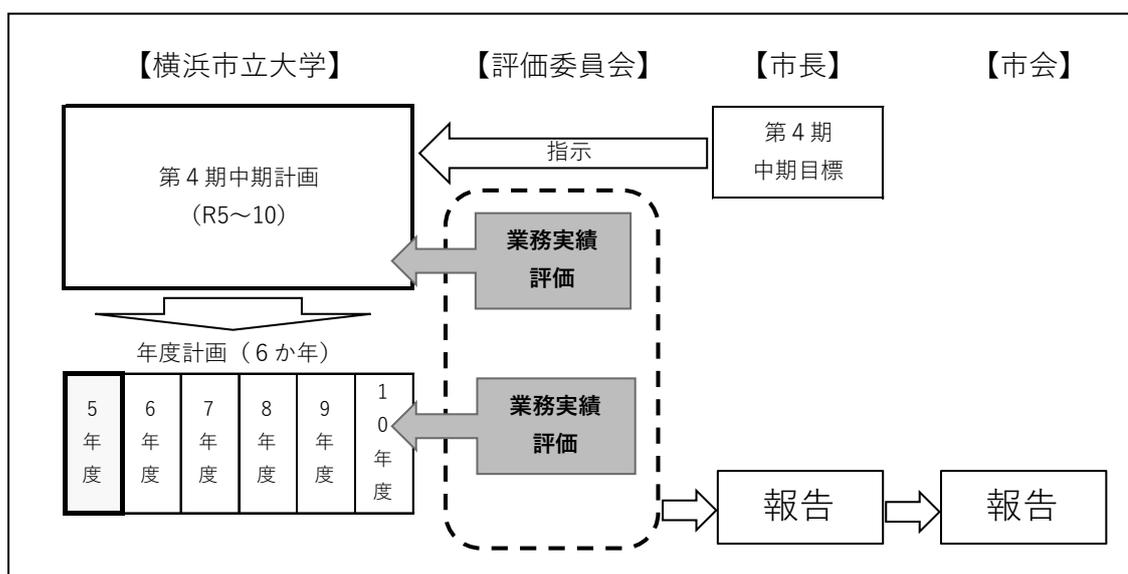
- ・評価を通じて改革のための取組を積極的に支援すること。
- ・組織、業務等について、改善の方法等を明らかにすること。

(2) 中間評価：中期目標期間（6年間）の4年目終了時に、中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績についての中間評価（みなし評価）を行う。

#### 【評価の視点】

- ・次期中期計画の策定に向けて、法人が業務運営の改善に適切に反映するための評価であること。

(3) 総合評価：中間評価の結果や、評価委員会において指摘された留意点等を踏まえ、中期目標期間における総合的な評価を行う。



## ■ 評価委員会委員

第10期委員（任期：令和5年2月27日～令和7年2月26日）

委員長	板東 久美子	元文部科学審議官
委員 (50音順)	今市 涼子	学校法人日本女子大学理事長
	大久保 千行	元横浜商工会議所副会頭
	大塚 篤	公認会計士
	山本 修一	独立行政法人地域医療機能推進機構理事長

## ■ 評価委員会開催実績（令和6年度）

5月13日、7月4日、8月22日（計3回開催）

### <令和5年度の業務実績評価>

#### ■ 評価の方針

第4期中期目標期間（令和5年度～令和10年度）の初年度となる、令和5年度の業務実績について、評価委員会は主として次のような方針に基づいて評価を行った。

- (1) 令和5年度の業務実績評価に当たっては、第4期中期目標、第4期中期計画の達成に資するよう、計画の進捗状況を書面及びヒアリング等により確認し、総合的な評価を実施するとともに、市民に分かりやすく公表する。
- (2) 法人の質的向上に資するよう、意欲的な取組を積極的に支援するほか、専門的観点から課題点を指摘するとともに、過去の指摘事項が大学運営に的確に反映されているかを確認する。
- (3) 自主的・自律的な大学運営の実現を目指し、法人全体の組織・業務等の改善・充実を図る観点から、目標設定の妥当性についても検討し、必要に応じて計画の修正を求める。

#### ■ 評価の基準

法人から提出された令和5年度の業務実績報告書等に基づき、評価委員会は書面審査及びヒアリングを実施し、各項目に沿って調査・分析の上、総合的に次の5段階による評価を行った。

- |                                   |
|-----------------------------------|
| S： 計画を大きく上回って実施している、または特筆すべき状況にある |
| A： 計画を上回って実施している                  |
| B： 計画どおり実施している                    |
| C： 計画を十分に実施していない                  |
| D： 重大な改善事項がある                     |

# 1 評価概要

## 令和5年度の総評

第4期中期計画の初年度である令和5年度は、教育、研究、医療、法人経営等、多岐にわたる分野について、計画に基づく具体的な取組が着実に進みつつあると認められる。

教育については、5学部6研究科による全学的な取組が着実に成果を上げており、特に、データサイエンスに関する取組が多層的に進められている。大学・高専機能強化支援事業なども活用して、プログラムの拡大・強化が図られることが期待される。

研究については、先端医科学研究センターを核として基礎と臨床の連携や共同研究が強化されており、特に先端医学共同研究拠点について国から高い評価を得るなど、結果が表れている。

医療については、附属2病院による高度で質の高い医療の提供を目指す取組が着実に進められている。特に、他病院の参加を開始した遠隔ICUシステムは高く評価できる。

地域貢献については、みなとみらいサテライトキャンパスの活用の充実により、地域との協働を推進する仕組の構築が期待される。

法人経営については、理事長をトップとする改革推進会議が設置され、学部・研究科のあり方、DX推進プロジェクトなど、重要事項の検討を進める体制が構築された。また、理事長直轄の監査室の新設など、ガバナンス強化の面でも進展が見られた。一方、令和5年度決算については、経常損益が大きな赤字となっており、学部・研究科ごとの収支に関する目標設定に至らない等、収支改善に向けた取組に課題が見られたことから、スピード感をもって早期の改善に努める必要がある。

令和5年度の評価一覧

項目		評価				
		S	A	B	C	D
		計画を大きく上回って実施している、または特筆すべき状況にある	計画を上回って実施している	計画どおり実施している	計画を十分に実施していない	重大な改善事項がある
I 教育	1 新たな時代を見据えた教育の提供			○		
	2 5学部6研究科における教育の充実		○			
	3 時代に即した学修環境・学生支援の提供			○		
	4 多様で優秀な人材の獲得と輩出			○		
	5 社会人の学び直し			○		
II 研究	1 先進的・学際的研究等の推進		○			
	2 オープンイノベーションの推進			○		
	3 研究基盤の強化及び支援体制の整備			○		
III 医療	1 患者本位の医療の提供と患者安全の取組			○		
	2 質の高い医療の提供			○		
	3 政策的医療への貢献、地域医療の推進		○			
	4 明日を担う質の高い医療人材の育成と活用		○			
IV 法人経営	1 経営改革を強力に推進するガバナンスの強化			○		
	2 不断の経営改革及び持続可能な経営のための自己収入確保				○	
	3 コンプライアンス推進、リスクマネジメントの確立			○		
	4 教職員エンゲージメントの向上				○	
	5 YCUの価値向上			○		
	6 課題解決を目指した地域社会との協働の推進			○		
	7 医学部・病院再整備事業を見据えた取組の推進			○		
	8 環境への配慮や交流を意識したキャンパスづくり			○		
V 自己点検及び評価			○			
VI 地域貢献（横断的項目）			○			
VII グローバル展開（横断的項目）			○			

## 2 項目別評価

### I 教育

#### 1. 新たな時代を見据えた教育の提供

【評価】 B

##### (優れた点・特色ある点)

- ・教育の質の保証やプログラムの充実に関し、分野を超えた連携・共有の取組を進めていることは高く評価できる。
- ・数理・データサイエンス・AI教育関連プログラムの履修率向上に努め、学生満足度も高くなっている。

##### (更なる充実が期待される点)

- ・データサイエンス以外の領域横断型プログラムについては修了者数が少なく、また、数理・データサイエンス・AI教育プログラムについては履修率向上を図るため、更なる検証・改善が期待される。

#### 2. 5学部6研究科における教育の充実

【評価】 A

##### (優れた点・特色ある点)

- ・大学・高専機能強化支援事業を活用したデータサイエンス教育の全学的な強化、国際商学部データサイエンス人材育成プログラムの試行開設、ヘルスデータサイエンス専攻博士後期課程の開設、社会人を対象とした履修証明プログラムの開設などに取り組んだことを高く評価する。
- ・大学・高専機能強化支援事業の認定で基盤ができ、また、次世代研究者挑戦的研究プログラム事業（SPRING事業）に採択されたことで、博士後期課程学生への支援が手厚くなっている。

##### (更なる充実が期待される点)

- ・特色あるデータサイエンス関連の取組や地域医療貢献、社会人対応などの取組については、更なる充実が期待される。

### 3. 時代に即した学修環境・学生支援の提供

【評価】 B

#### (優れた点・特色ある点)

- ・学生の主体的な学修を支援する取組や生活及び経済状況を把握したきめ細やかな支援に努めている。
- ・ガイダンス受講に対する学生満足度の高さは評価できる。

#### (更なる充実が期待される点)

- ・DX (LMS※) 等の活用については、利用性向上のためのシステム改修を行う等、一定の成果と仕組み作りができた。今後、一層の取組を期待する。

※ LMS (Learning Management System) : 学修管理システム

#### (改善すべき点)

- ・LMS の更なる活用のために、学生の目標記入率の低下等の課題に当たって、学生や教員からのニーズ把握や活用促進の取組に一層努めてほしい。

### 4. 多様で優秀な人材の獲得と輩出

【評価】 B

#### (優れた点・特色ある点)

- ・キャリア支援の充実により、留学生も含めた就職に関する目標が、高い達成率を示していることは高く評価できる。
- ・進路関係の学生満足度の高さは評価できる。

#### (更なる充実が期待される点)

- ・高大連携事業やキャリア支援は今後益々重要となることが予想されるため、高校生に対しての情報提供等、更なる充実が期待される。

#### (改善すべき点)

- ・優秀な留学生の獲得については、企業とタイアップした説明会やインターンシップ等、キャリア支援と合わせた戦略的な取組の検討が望まれる。また、インターンシップの更なる拡大が必要である。

## (優れた点・特色ある点)

- ・データサイエンス、医療経営・政策など、社会的ニーズの高い分野について、大学の強みを生かした社会人向けの特色あるプログラムを設置するなど、取組を進めていることを評価する。
- ・プログラム設置数、受講生満足度ともに目標を上回っていることを評価する。

## (更なる充実が期待される点)

- ・授業開放講座の受講生は多いものの、DS（データサイエンス）リカレントプログラムへの参加が少ないのは、残念である。多様な分野・形態での社会人の学びの機会の拡充を、更に進めることを期待する。
- ・市立大学として、市民に提供すべきリカレント教育の方針についての議論を期待する。
- ・社会人の学びの機会については、将来的にニーズはますます高まると予想されることから、企業との提携、外部講師の充実・増加、教育スペースの確保等の検討を行い、更なる充実が望まれる。
- ・みなとみらいサテライトキャンパスの活用については、更なる充実が期待される。

## Ⅱ 研究

### 1. 先進的・学際的研究等の推進

【評価】 A

#### (優れた点・特色ある点)

- ・先端医科学研究センターを核として、基礎と臨床の連携や共同研究が強化されていること、臨床研究の推進支援体制が整備されてきていること、学長裁量事業による研究推進が進んでいることを高く評価する。
- ・共同利用・共同研究拠点「マルチオミックスによる遺伝子発現制御の先端医学共同研究拠点」の認定期間終了に伴う文部科学省の期末評価でS評価となり、再認定されたことは賞賛に値する。

#### (更なる充実が期待される点)

- ・論文数の指標に関しては高い目標設定がなされている。その実現のための取組の進捗が加速されることを期待する。

#### (改善すべき点)

- ・未達成である臨床研究の実施件数は、更なる努力に期待する。

### 2. オープンイノベーションの推進

【評価】 B

#### (優れた点・特色ある点)

- ・COI-NEXT※の外部資金の獲得による事業の推進や、産学官連携支援体制の構築が進んでいることを評価する。

※ COI-NEXT：共創の場形成支援プログラム。大学等が中心となって未来のありたい社会像（拠点ビジョン）を策定し、その実現に向けた研究開発を推進するとともに、プロジェクト終了後も、持続的に成果を創出する自立した産学官共創拠点の形成を目指す産学連携プログラム

- ・共創イノベーションセンター設置等、従来からの努力が奏効した結果と評価する。
- ・起業に関する相談やベンチャーキャピタルとの面談設定により、ベンチャー創出数の高い実績に結び付いた。

#### (更なる充実が期待される点)

- ・共同・受託研究について、数値面での一層の進捗を期待する。
- ・今後、共創イノベーションセンターを活用し、どう推進していくかの具体策が必要。

- ・URA※ とコーディネーター、大学職員との協働体制の構築が重要。

※ URA (University Research Administrator) : 研究者及び事務職員とともに、研究資源の導入促進、研究活動の企画・マネジメント、研究成果の活動促進を行って、研究者の研究活動の活性化や研究開発マネジメントの強化を支える業務に従事する人材のこと

### 3. 研究基盤の強化及び支援体制の整備

【評価】 B

(優れた点・特色ある点)

- ・若手研究者や博士課程学生に対する論文投稿費用の一部補助など、支援体制が強化されていることを高く評価する。
- ・研究機器、設備等の整備がほぼ計画通りにできており、研究基盤の強化がされている。

### Ⅲ 医療

#### 1. 患者本位の医療の提供と患者安全の取組

【評価】 B

##### (優れた点・特色ある点)

- ・患者本位で安全な医療に関して、様々な角度から検証・分析し、改善策の策定・実施に取り組んでいることを評価する。
- ・外来患者満足度調査等による課題認識や、医療の質可視化プロジェクトによるデータ分析等、患者ニーズに対応した取組を評価する。

##### (更なる充実が期待される点)

- ・診療科を超えた連携、両病院にわたる連携や情報共有の更なる強化が期待される。
- ・附属2病院の統合・再整備を見据えたDX推進に、なお一層注力することを期待する。

#### 2. 質の高い医療の提供

【評価】 B

##### (優れた点・特色ある点)

- ・遠隔ICU<sup>※</sup>への他病院の参加の開始や、外国人患者のための様々な環境整備を進めていることを高く評価する。

※ 遠隔ICU：集中治療専門の医師等がネットワーク通信を利用して複数の集中治療室の医療情報を集約し、患者モニタリングや遠隔地から現場の医師等へのサポート等を行う

- ・質の高い医療の提供に向けた、必要な施設・設備投資を着実に進めている。

##### (更なる充実が期待される点)

- ・先進医療申請のために、段階を踏んで着実に取り組んでいくことを期待する。
- ・外国人患者のニーズが増えると予想されることから、医療の国際化については更なる充実が期待される。
- ・手術件数等、一部未達成の指標については、更なる取組を期待する。

### 3. 政策的医療への貢献、地域医療の推進

【評価】 A

#### (優れた点・特色ある点)

- ・不妊治療の提供において、目標を大きく超えた実績を上げたことを高く評価する。
- ・医療機関間の連携の拡大や、能登半島地震における DMAT<sup>※</sup> やコメディカルの派遣等、災害医療への積極的な取組を高く評価する。

※ DMAT (Disaster Medical Assistance Team) : 災害派遣医療チーム。医師、看護師、業務調整員(医師・看護師以外の医療職及び事務職員)で構成され、大規模災害や多数傷病者が発生した事故などの現場に、急性期(おおむね48時間以内)から活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チーム

#### (更なる充実が期待される点)

- ・附属市民総合医療センターの新入院患者数の拡大や入院管理の改善に向け、一層の取組を期待する。

#### (改善すべき点)

- ・救急応需率等、一部、未達成の指標について、更なる取組を期待する。

### 4. 明日を担う質の高い医療人材の育成と活用

【評価】 A

#### (優れた点・特色ある点)

- ・様々な取組の結果の積み重ねが、初期研修医のマッチング率や登録者数の数値に反映されている。
- ・地域機関との人事交流やキャリアラダーに基づく研修、専攻医の育成、臨床研修医の確保等、積極的に質の高い医療人材の育成に努め、実績を残した。
- ・大学院看護学専攻博士前期課程進学者や臨床実習指導者講習会受講者は、計画を大きく超えて達成した。

#### (改善すべき点)

- ・附属市民総合医療センターにおいては特定行為に従事する看護師の指標が未達成であり、中期計画の達成に向けて今後の着実な人数の増加を期待する。

## IV 法人経営

### 1. 経営改革を強力に推進するガバナンスの強化

【評価】 B

#### (優れた点・特色ある点)

- ・理事長、学長によるガバナンスの強化が進み、課題であった監査室の設置を決定した点を評価する。

#### (更なる充実が期待される点)

- ・監事と監査室との円滑な連携体制を構築し、監査室が今後、十分に独立した内部監査担当部署として実効性のある形で機能していくことを期待する。

### 2. 不断の経営改革及び持続可能な経営のための自己収入確保

【評価】 C

#### (優れた点・特色ある点)

- ・外部資金獲得にもつながる研究支援体制の整備や、受託研究・共同研究の間接経費比率の引上げに取り組んだことを評価する。

#### (改善すべき点)

- ・目標に及ばなかった寄附金等、外部資金の獲得については、まだ拡大の余地があることから、創立 100 周年に向けた体制整備、同窓会組織との連携も含めて取組を強化することを期待する。
- ・経常損益の赤字、学部・研究科ごとの収支目標が未設定であることについて、今後の対応が望まれる。

### 3. コンプライアンス推進、リスクマネジメントの確立

【評価】 B

#### (優れた点・特色ある点)

- ・コンプライアンス推進委員会を中心に計画通りに取り組み、指標についても目標を達成した努力を評価する。

#### (更なる充実が期待される点)

- ・コンプライアンスに関しては様々なテーマに取り組む必要があり、ハラスメントについても取組を強化することを期待する。
- ・リスクマネジメントに関しては防災や感染症だけではなく、学生が巻き込まれるトラブルなど幅が広いいため、広報の部署と連携を図るなど更なる充実を期待する。

### 4. 教職員エンゲージメントの向上

【評価】 C

#### (優れた点・特色ある点)

- ・医師のタスクシフトやタスクシェアに向けた取組が前進していることを評価する。

#### (改善すべき点)

- ・医師の配偶者の出産に伴う休暇（3日以上）の取得率について指標が達成できなかった。取得に向けた一層の工夫が望まれる。
- ・ダイバーシティ推進については、さらに具体的な実施内容を実績報告書にも明らかにしつつ、成功例を見せながら決意を示す必要がある。

## 5. YCUの価値向上

【評価】 B

### (優れた点・特色ある点)

- ・卒業生との交流や広報戦略が策定されるなど、具体的な項目が着実に実施されている。  
また、学生広報プロジェクトによる動画制作を行い、YouTube で配信するなどのユニークな取組等が展開されており、大学の認知度が高まった。

### (更なる充実が期待される点)

- ・創立 100 周年をアピールするなどし、メディアを活用するなどして対外発信をさらに強化する必要がある。
- ・人生 100 年時代を迎え、卒業生へのリカレント教育の提供という観点からも同窓会組織は重要と考えられるため、一層の卒業生連携や広報活動の充実が期待される。

## 6. 課題解決を目指した地域社会との協働の推進

【評価】 B

### (優れた点・特色ある点)

- ・地域貢献の取組やコーディネーターの活動について、ウェブサイトやメールマガジン等の広報ツールを活用し学内外に発信していることを評価する。

### (更なる充実が期待される点)

- ・中期目標の達成を見据え、具体的に地域との協働を推進する仕組の構築が期待される。
- ・コーディネーターは地域との橋渡し役として大変重要である。認知度向上に努める必要がある。

## 7. 医学部・病院再整備事業を見据えた取組の推進

【評価】 B

### (更なる充実が期待される点)

- ・附属2病院の連携は前進しつつあるが、まだ、事務、人材育成等で協働・共通化できる事柄もあると考えられ、更なる連携強化が望まれる。
- ・医学部・病院の再整備の検討に当たっては、教育研究にも支障が生じないように、十分に配慮する必要がある。横浜市と連携しつつ、決められた方向性に基づき、メリット、デメリットを意識した取組を期待する。
- ・経営改善に向けた取組において、ベンチマーク分析データ、原価計算結果等に基づく課題認識と、具体的対応を進めることが期待される。

### (改善すべき点)

- ・医師事務作業補助体制加算については、医師の働き方改革を推進するため、最上位加算を目指すべきである。

## 8. 環境への配慮や交流を意識したキャンパスづくり

【評価】 B

### (優れた点・特色ある点)

- ・コロナ後に大幅に増した交換留学生の宿舎の拡大は、重要な成果である。

### (更なる充実が期待される点)

- ・交換留学生の宿舎は確保できたが、国際混住型留学生宿舎は日本人学生にとっても大きなメリットがあることから、引き続き検討を行うことを期待する。
- ・総合研究教育棟のZEB<sup>※</sup>化の検討については、更なる推進を期待する。

※ ZEB (Net Zero Energy Building) : 快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物のこと

- ・エネルギー効率を踏まえたメンテナンス計画の策定や「交流の場」整備等の実施について、具体的取組を期待する。
- ・医学部・病院等再整備においても、環境へ配慮した計画策定を期待する。

## V 自己点検及び評価

【評価】 B

- ・着実に自己点検を実施し、必要な第三者評価を受審し、改善に向けた取組を実施している。

## VI 地域貢献（横断的項目）

【評価】 B

（優れた点・特色ある点）

- ・高い地域貢献意識を持って、各分野における体制整備や具体的な取組を進めている。

（更なる充実が期待される点）

- ・リカレント教育は、市民から他校と比較される場所であるため、更なる充実を期待する。人生 100 年時代のこれからはキャリア計画が重要になると考えられるため、卒業生を含めた、地域貢献としての横浜市立大学のリカレント教育の構築に向けた議論を期待する。
- ・みなとみらいサテライトキャンパスについて、更なる活用が期待される。

## VII グローバル展開（横断的項目）

【評価】 B

（優れた点・特色ある点）

- ・外国人留学生の受入の拡大や、外国人患者への対応が進みつつあることを評価する。
- ・文部科学省に認定された YCU-ADVANCE Program<sup>※</sup> の実施を評価する。

※ YCU-ADVANCE Program：令和 4 年 3 月 31 日に文部科学省「留学生就職促進教育プログラム」に認定された横浜市立大学の教育プログラム。自治体、企業、大学が担う役割を具体化し、留学生の入学から卒業、入社後までの一貫したキャリア形成支援を産官学一体となって推進するもの

（更なる充実が期待される点）

- ・日本人学生の留学や外国人教員がさらに増加することを期待する。
- ・先行きが不透明で価値観も急速に変化している VUCA の時代において、横浜市立大学の教育や社会貢献におけるグローバル展開とはどういうものか、今後の議論を期待する。
- ・企業とのタイアップによるスキルアップや、インターンシップ等の新たな施策を期待する。

法人による自己評価

S:計画を大きく上回って実施している、または特筆すべき状況にある A:計画を上回って実施している B:【標準】計画どおり実施している C:計画を十分に実施していない D:重大な改善事項がある

項目			自己評価						
大項目	中項目	【計画No.】	S	A	B	C	D	合計	自己評価
<b>I</b>	<b>教育</b>	<b>【1】～【11】</b>	<b>0</b>	<b>2</b>	<b>9</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>11</b>	<b>B</b>
	1	新たな時代を見据えた教育の提供 【1】【2】	0	0	2	0	0	2	B
	2	5学部6研究科における教育の充実 【3】～【6】	0	2	2	0	0	4	A
	3	時代に即した学修環境・学生支援の提供 【7】【8】	0	0	2	0	0	2	B
	4	多様で優秀な人材の獲得と輩出 【9】【10】	0	0	2	0	0	2	B
	5	社会人の学び直し 【11】	0	0	1	0	0	1	B
	評価概要	指標では、学生満足度(共通教養カリキュラム評価)【2】88.0%(目標83%)、数理・データサイエンス・AI教育プログラム履修率【2】35.3%(目標23%)、「リカレント教育」に係るプログラム設置数【11】12件(目標7件)等、多くの項目で目標達成した一方、領域横断型プログラム修了者数(数理・データサイエンス・AI教育プログラム除く)【2】42人(目標60人)については未達成となった。令和5年度は、データサイエンス研究科ヘルスデータサイエンス専攻博士後期課程の開設、文科省「大学・高専機能強化支援事業」の選定によるデータサイエンス学部及び研究科の強化に向けた検討、JST「次世代研究者挑戦的研究プログラム(SPRING)事業」の採択による博士後期課程学生への支援などの取組を進めた。これらの実績を評価し、I-2(中項目)はA評価、I全体はB評価とした。							
<b>II</b>	<b>研究</b>	<b>【12】～【16】</b>	<b>0</b>	<b>1</b>	<b>4</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>5</b>	<b>B</b>
	1	先進的・学際的研究等の推進 【12】【13】	0	1	1	0	0	2	A
	2	オープンイノベーションの推進 【14】	0	0	1	0	0	1	B
	3	研究基盤の強化及び支援体制の整備 【15】【16】	0	0	2	0	0	2	B
	評価概要	指標については、中期6年間の累計目標達成に向けて各取組を進めた。令和5年度は、文科省「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」の採択により研究拠点の整備を進めたほか、共同利用・共同研究拠点「マルチオミックスによる遺伝子発現制御の先端医学共同研究拠点」(平成30年度～文科省認定)の認定期間終了に伴う期末評価でS評価となり、7年間の再認定となった。またオープンイノベーションを推進するため、体制整備と設置規程の策定を行い、令和6年4月の「共創イノベーションセンター」設置につなげた。これらの実績を評価し、II-1(中項目)はA評価、II全体はB評価とした。							

項目			自己評価							
大項目	中項目	【計画No.】	S	A	B	C	D	合計	自己評価	
<b>Ⅲ 医療</b>		<b>【17】～【25】</b>	<b>1</b>	<b>7</b>	<b>9</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>18</b>	<b>B</b>	
	1	患者本位の医療の提供と患者安全の取組	【17】～【20】	0	2	6	0	0	8	B
	2	質の高い医療の提供	【21】【22】	0	2	2	0	0	4	B
	3	政策的医療への貢献、地域医療の推進	【23】【24】	1	1	1	1	0	4	B
	4	明日を担う質の高い医療人材の育成と活用	【25】	0	2	0	0	0	2	A
	評価概要	指標については、患者満足度(【17】附78.9%(目標78%)、セ78.4%(目標77%))、医療安全管理研修の受講率(【17】附・セともに100%)、クリニカルパス適用率(【20】附51.4%(目標50%)、セ56.8%(目標55%))等が目標達成した一方、救急応需率(【23】附88.1%(目標86%))、新入院患者数(【24】セ18,637人(目標19,300人))、DPC入院期間Ⅱ以内の退院割合(【20・24】セ73.6%(目標75%))等が未達成となった。「医師の働き方改革」に向けて医師のタスクシフト・タスクシェアを進めたほか、令和6年能登半島地震ではDMATを派遣して被災地にて支援活動を行い、災害時医療に貢献した。また臨床研修プログラムを充実させるなど、医療人材の育成に取り組んだ。これらの実績を評価し、Ⅲ-4(中項目)はA評価、Ⅲ全体はB評価とした。								
<b>Ⅳ 法人経営</b>		<b>【26】～【42】</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>15</b>	<b>3</b>	<b>0</b>	<b>18</b>	<b>B</b>	
	1	経営改革を強力に推進するガバナンスの強化	【26】	0	0	1	0	0	1	B
	2	不断の経営改革及び持続可能な経営のための自己収入確保	【27】～【29】	0	0	1	2	0	3	C
	3	コンプライアンス推進、リスクマネジメントの確立	【30】【31】	0	0	2	0	0	2	B
	4	教職員エンゲージメントの向上	【32】【33】	0	0	1	1	0	2	C
	5	YCUの価値向上	【34】～【37】	0	0	4	0	0	4	B
	6	課題解決を目指した地域社会との協働の推進	【38】	0	0	1	0	0	1	B
	7	医学部・病院再整備事業を見据えた取組の推進	【39】【40】	0	0	3	0	0	3	B
	8	環境への配慮や交流を意識したキャンパスづくり	【41】【42】	0	0	2	0	0	2	B
	評価概要	指標では、障害者雇用率(【33】2.58%(目標:法定雇用率以上))、市の施策立案等に関わる連携取組件数(【38】33件(目標28件))等が目標達成した一方、寄附獲得額(【28】1.7億円(目標2.5億円))、配偶者の出産に伴う休暇の取得率(【33】53.8%(目標100%))については未達成となった。理事長をトップとして設置した改革推進会議を開催し、今後の収支改善に向けた課題の整理を行ったものの、令和5年度決算については法人全体で経常損益が約21億円の赤字となった。これらを踏まえ、Ⅳ-2、Ⅳ-4(中項目)はC評価、Ⅳ全体はB評価とした。								
<b>Ⅴ 自己点検及び評価</b>		<b>【43】</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>1</b>	<b>B</b>	
	評価概要	中期計画の周知と自己点検及び評価を計画通り実施したことを踏まえ、B評価とした。								
<b>合計</b>			<b>1</b>	<b>10</b>	<b>38</b>	<b>4</b>	<b>0</b>	<b>53</b>	<b>—</b>	

※ VI 地域貢献・VII グローバル展開(横断的項目)の自己評価は各項目に含む

■令和5年度計画における評価一覧

令和6年8月22日  
横浜市立大学法人評価委員会  
資料 2 - 2

- S：計画を大きく上回って実施している、または特筆すべき状況にある  
A：計画を上回って実施している  
B：計画どおり実施している【標準】  
C：計画を十分に実施していない  
D：重大な改善事項がある

項目	自己評価	委員評価	進捗状況の確認にあたっての意見等	原案
I 教育	1. 新たな時代を見据えた教育の提供 (p6)	A	教育の質保証・プログラム充実に関し、分野を超えた連携・共有の取組を進めていることは高く評価できる。データサイエンス以外の領域横断型プログラムについては、修了者数が少なく、見直しの努力も進められているが、さらなる検証・改善による充実を期待している。	B
		B	数理・データサイエンス・AI教育関連のプログラムの履修率を上げるのは容易ではないが、よく頑張っている。学生満足度も高い。	
		B	推進センターを中心に指標をクリア。大学機関別認証評価「認定」を受審等、スタート年度としてはまずまず。	
		B	学生満足度が高い。数理・データサイエンス・AI教育プログラム履修率は中期計画達成のため充実が期待される。	
		B	概ね計画通りと評価できる。	
2.	5学部6研究科における教育の充実 (p8)	A	データサイエンス教育を深化・拡充しており、「大学・高専機能強化支援事業」を活用したデータサイエンス教育の全学的な強化、国際商学部のプログラムの開設、ヘルスデータサイエンス専攻博士後期課程の開設、社会人を対象とした履修証明プログラムの開設などに取り組んできていることは高く評価できる。	A
		A	大学・高専機能強化支援事業の選定を受けたこと、また、次世代研究者挑戦的研究プログラム事業に採択され、博士課程後期学生への支援が手厚くなったことを高く評価する。	
		A	「データサイエンス人材育成プログラム」により認定数が増加した事。国の「大学・高専機能強化支援事業」の認定で基盤が出来た。	
		A	「大学・高専機能強化支援事業」認定、「SPRING事業」採択よりAと評価した。データサイエンス関連の施策は特色であるとともにさらなる充実が期待される。地域医療貢献や社会人対応などは計画を達成しているがさらなる充実が期待される。	
		B	概ね計画通りと評価できる。	
3.	時代に即した学修環境・学生支援の提供 (p13)	B	きめ細かな学修支援・生活支援に努めている。LMSの活用促進については一層の取組を期待する。	B
		B	LMSでの学生の目標記入率の低下、学生自治会の活性化の必要性など、学生の主体性が問われる問題は、難しいと思うが、今後も努力してもらいたい。	
		B	DX (LMS) 等の活用等、一定の成果と仕組作りが出来たが、更に一層、学生、教員のニーズ把握と実現が必要。	
		B	LMS活用のため目標記入率を高めることが期待される。	
		B	概ね計画通りと評価できるが、ガイダンス受講に対する学生満足度の高さは注目しうる。	
4.	多様で優秀な人材の獲得と輩出 (p15)	B	キャリア支援を充実させ、留学生も含め、就職に関して各目標の高い達成率を示していることは高く評価できる。高大接続、高校生に対しての情報提供についてはさらに充実することを期待する。	B
		B	高大連携事業、並びにキャリア支援の重要度は今後益々大きくなることが予想されるので、更なる充実が期待される。	
		B	留学生獲得については、そのキャリア支援と合わせた施策、即ち企業とタイアップした説明会、インターンシップ等要検討。全体としてインターンシップの更に拡大必要。	
		B	計画どおり実施している。	
		B	概ね計画通りと評価できるが、進路関連の学生満足度の高さは注目しうるものであり、更なる向上を期待したい。	
5.	社会人の学び直し (p18)	B	データサイエンス、医療経営・政策など、社会的ニーズの高い分野について、大学の強みを活かして社会人向けプログラムの充実に取り組んできている。授業開放も含め、さらに多様な分野・形態での社会人の学びの機会の拡充を進めることを期待する。	B
		B	授業開放講座の受講生は多いが、DSリカレントプログラムへの参加が少ないのは、残念。市立大学として横浜市に提供すべきリカレント教育の方針についての議論を期待する。	
		B	少しずつ充実しているが、将来を考えるとまだまだ少ない（他校比）。企業との提携、外部講師の充実増加、教育スペースの確保等、検討課題。	
		B	データサイエンス関連、医療経営と特色あるプログラムがある。サテライトキャンパスの活用はさらなる充実が期待される。	
		A	プログラム設置数、受講生満足度ともに目標を上回っている。	

項目		自己 評価	委員 評価	進捗状況の確認にあたっての意見等	原案
II 研究	1. 先進的・学 際的研究等 の推進 (p19)	A	A	先端医科学研究センターを核として基礎と臨床の連携や共同研究が強化されていること、臨床研究の推進支援体制が整備されてきていること、学長裁量事業による研究推進が進んでいることを高く評価する。論文数の指標に関しては高い目標設定がなされており、その実現のために取組の進捗が加速されることを期待している。	A
			A	Top10%論文数、科研費採択率の高さなど、研究の質の高さを支えるため、論文投稿支援の充実を進めたことを高く評価する。	
			A	産学官連携、共同研究施設整備事業への採択。共創イノベーションセンター設置等、従来からの努力が奏効、いい初年度となった。	
			A	文科省より「先端医学共同研究拠点」期末評価でS評価となったこともありA評価とした。中期計画の達成に向けての活動が期待される。	
			A	マルチオミックス共同拠点がS評価で再認定となったのは賞賛に値するが、臨床研究の実施件数は未達であり、更なる努力に期待したい。	
	2. オープンイ ノベーションの推進 (p21)	B	B	COI-NEXT等の外部資金の獲得による事業の推進や産学官連携支援体制の構築が進んできていることを評価する。今後共同・受託研究の数値面での一層の進捗を期待する。	B
			B	URAとコーディネーター、大学職員との協同体制の構築が重要。	
			B	センター設置は評価。今後センターを活用し、どう推進してゆくか具体策が必要。	
			A	COI-NEXTの追加支援事業採択、ベンチャー創出数が優れておりA評価とした。	
			B	概ね計画通りと評価できる。	
	3. 研究基盤の 強化及び支 援体制の整 備 (p23)	B	B	若手研究者や博士課程学生への支援体制が強化されていることを高く評価する。このような支援の充実により、科研費についても今後一層の採択実績に結実することを期待している。	B
			B	若手研究者の育成のための、博士課程後期学生への支援は素晴らしい。中期計画には、「若手研究者や女性研究者等を支援する、」と書かれているが、女性研究者の科研費採択率などのデータ、女性研究者への支援についての実績も入れて欲しい。	
			B	機器、設備等の整備、URA等の設置、若手研究者への支援策策定と実施、ほぼ計画通りに出来ている。	
			B	計画どおり実施している。	
			B	概ね計画通りと評価できる。	

項目		自己 評価	委員 評価	進捗状況の確認にあたっての意見等	原案
III 医療	1. 患者本位の 医療の提供 と患者安全 の取組 (p24)	B	B	患者本位で安全な医療に関して様々な角度から検証・分析し、改善策の策定・実施に取り組んでいることを評価する。さらに診療科を超えた、また両病院にわたる連携・情報共有を強化することが期待される。	B
			B	患者満足度が目標を達成しており、医療の質の可視化も進んでいる。附属2病院の統合・再整備を見据えたDX推進になお一層注力して欲しい。	
			B	患者本位の意識向上の諸施策に取り組んでいる。患者満足度の達成、患者ニーズに対応した取組みを評価。	
			B	外来患者満足度調査等によって課題認識ができた。「医療の質可視化プロジェクト」よりデータ分析による評価を行うことができている。改善対応の策定と実行、患者満足度の向上が期待される。	
			B	概ね計画通りと評価できる。	
	2. 質の高い医療の提供 (p31)	B	A	遠隔ICUに他病院の参加の開始や、外国人患者のための様々な環境整備を進めていることを高く評価する。先進医療申請のために段階を踏んで着実に取り組んで行くことを期待する。	B
			A	医療機器整備も計画通り進んでおり、遠隔ICUの取り組みは高く評価できる。医療の国際化も外国人患者のニーズが増えると予想されることから更なる充実が期待される。	
			B	提供に向けたインフラ整備は良好。治療件数、手術件数等、指標が一部未達成。	
			B	遠隔ICUの取り組み、必要な施設・設備投資を着実に進めている。	
			B	附属病院の手術件数が、コロナ禍を脱して目標の111%となったことに敬意を表すが、このために研究活動が圧迫されないことを望む。	
	3. 政策的医療 への貢献、 地域医療の 推進 (p34)	B	A	医療機関間の連携の拡大や災害医療への積極的な取組、不妊治療の提供に高い実績をあげていることを高く評価する。センター病院の新入院患者数拡大や入院管理の改善に向けた一層の取組を期待する。	A
			B	心疾患ホットラインの運用拡大等、地域医療を支える様々な取り組みを行っているが、中々数値に反映されないのが残念。	
			B	能登半島地震への支援は評価できる。応需率等、一部未達成。	
			A	能登半島地震においてDMATのほかコメディカルを派遣したこと、不妊手術において目標を大きく超えて達成したことよりA評価とした。	
			A	コロナ禍後の困難な状況にも関わらず、地域から期待される役割を確実に果たしていると評価できる。	
	4. 明日を担う 質の高い医療人材の育成と活用 (p39)	A	A	初期臨床研修医マッチング率・登録者数の高い実績を高く評価する。センター病院においては特定行為に従事する看護師が1名のみであり、今後の着実な増加を期待する。	A
			A	様々な取り組みの結果の積み重ねが、初期研修医のマッチング率等の数値に反映されている。	
			A	地域機関との人事交流、キャリアラダーに基づく研修等。専攻医の育成、臨床研修医の確保等、積極的に活動、実績を残した。	
			A	大学院看護学専攻博士前期課程進学者、臨床実習指導者講習会受講者の計画を大きく超えて達成した。中期計画達成に向けて特定行為に従事する看護師人数増加が期待される。	
			B	概ね計画通りと評価できる。	

項目		自己 評価	委員 評価	進捗状況の確認にあたっての意見等	原案
IV 法人 経営	1. 経営改革を 強気に推進 するガバナ ンスの強化 (p42)	B	B	課題であった内部監査室の設置の決定を評価し、今後十分に機能していくことを期待する。	B
			B	内部監査室の設置は当然だと考えるが、監事と内部監査室との連携体制をうまく構築する必要がある。	
			B	理事長、学長によるガバナンスの強化が進んだ点。監査室の設置方針は評価できる。	
			B	特記事項として記載あるが、理事長直轄監査室、独立した内部監査担当部署の設置を実効性のある形で着実に行って頂きたい。	
			B	概ね計画通りと評価できる。	
	2. 不断の経営 改革及び持 続可能な経 営のための 自己収入確 保 (p42)	C	C	外部資金獲得にもつながる研究支援体制の整備や受託研究・共同研究の間接経費比率の引き上げを評価する。寄附金等外部資金の獲得については、まだ拡大の余地があるところから、さらに百周年に向けた体制整備、同窓組織との連携も含めて取組を強化することを期待する。	C
			C	学部・研究科ごとの収支に関する目標を立てる、とあるが、現実問題として可能なのか？また、寄附金の目標額をもう少し低く設定しても良いと考える。	
			C	DX、デジタル化への取組は、まずまず計画通り。経常損益の赤字、学部毎収支未設定等、施策・対応が出来ていない。	
			C	経常損益が大きな赤字であることからC評価とした。また、システムの改善を進めることには多くの課題があると想像するが、効率的・効果的なシステム導入を計画通り進めて頂きたい。	
			B	概ね計画通りと評価できるが、寄付獲得が目標に及ばなかったのは残念である。	
	3. コンプライ アンス推 進、リスク マネジメン トの確立 (p45)	B	B	コンプライアンスに関しては様々なテーマに取り組む必要があり、ハラスメントについても取組の強化を期待する。	B
			B	コンプライアンス推進の努力を評価する。リスクマネジメントに関しては、防災や感染症だけでなく、学生トラブルなど幅が広いので、広報との連携をとる必要がある。	
			B	コンプライアンス委員会中心に計画通り実施した。指標についても目標達成している。	
			B	計画どおり実施している。	
			B	概ね計画通りと評価できる。	
	4. 教職員エン ゲージメン トの向上 (p46)	C	C	医師のタスクシフト・タスクシェアに向けた取組は前進しているが、医師の場合の配偶者の出産に伴う休暇（3日以上）の取得率は低く、医師もこのような休暇が取得できるよう、一層の工夫が望まれる。ダイバーシティ推進については、さらに具体的な実施内容を実績報告書にも明らかにすることを期待する。	C
			B	ダイバーシティ推進計画の周知も必要だが、（1）男女共同参画推進、（2）働き方改革、（3）多様性の尊重、のそれぞれで何を目的とし何を行うのか、の施策を考えて欲しい。	
			C	エンゲージメント、ダイバーシティも、やや研修だけに頼りすぎ。具体的施策を実施し、その中で成功例を見せながら決意示す必要有り。	
			C	配偶者の出産に伴う休暇取得率が目標未達であるためC評価とした。	
			B	概ね計画通りと評価できる。	
5. YCUの価値 向上 (p49)	B	B	学生広報プロジェクト等のユニークな取組はあるが、100周年も活用しながら、メディア関係を含めて対外発信をさらに強化する必要がある。	B	
		B	人生100年時代を迎え、卒業生へのリカレント教育の提供という観点からも同窓会組織は重要だと考える。そのための広報活動も重要。		
		A	具体的な項目を着実に実施しており、目標通り経過している。OBとの交流、広報戦略も進化している。		
		B	卒業生連携を充実させることが期待される。		
		B	概ね計画通りと評価できる。		

項目	自己 評価	委員 評価	進捗状況の確認にあたっての意見等	原案	
IV 法人 経営	6. 課題解決を 目指した地 域社会との 協働の推進 (p52)	B	B	地域貢献実績やコーディネーターの活動への発信を進めていることを評価する。	B
			B	地域コーディネーターは大変重要かと考えるが、彼らの認知度向上にむけた努力も行うべき。	
			B	まだまだ活動周知の段階。教育地域貢献活動もこれから。相談対応件数と連携件数の中味の施策への展開が必要。	
			B	中期計画達成を見据え、具体的に地域との協働を推進する仕組みの構築が期待される。	
			B	概ね計画通りと評価できる。	
7. 医学部・病 院再整備事 業を見据え た取組の推 進 (p53)	B	B	附属2病院の連携は前進しつつあるが、まだ、事務、人材育成等で協働・共通化できる事柄もあると考えられ、さらなる連携強化が望まれる。医学部・病院の再整備の検討に当たっては、教育研究にも支障が生じないよう、十分に配慮する必要がある。	B	
		B	何と言っても、2病院の協同が成功の鍵を握ると考えられるので、協同を導く施策が重要。		
		B	横浜市と連携しつつ、決まっている方向性に基づき、メリット、デメリットを意識した取り組みを期待する。		
		B	経営改善に向けた取り組みにおいて、ベンチマーク分析データ、原価計算結果等に基づく課題認識と具体的対応を進めることが期待される。		
		C	医師事務作業補助体制加算については、医師の働き方改革推進のために大学病院であれば最上位加算を目指すべきである。		
8. 環境への配 慮や交流を 意識した キャンパス づくり (p55)	B	B	留学生の宿舎が確保できたが、混住型宿舎は日本人学生にとっても大きなメリットがあることから、引き続き検討を行うことを期待する。	B	
		B	総合研究教育棟のZEB化の検討は、避けて通れないと考えるので、是非進めてほしい。交換留学生の宿舎の拡大は重要な成果。		
		B	メンテナンス計画の策定、交流の場の整備等実施。具体的施策は今後期待したい。		
		B	医学部・病院等再整備においても環境へ配慮した計画策定が期待される。		
		B	概ね計画通りと評価できる。		

項目	自己 評価	委員 評価	進捗状況の確認にあたっての意見等	原案
V 自己点検及び評価 (p57)	B	B	着実に自己点検、必要な外部評価の実施や準備を進めている。	B
		B	中期計画や経営改革の取り組みの教職員への発信、そして、法人評価委員会の評価結果に基づく改善の取り組みをWeb公開する事は重要である。	
		B	計画通り実施した。	
		B	計画どおり実施している。	
		B	概ね計画通りと評価できる。	
VI 地域貢献 (p14～52) (横断的項目) 【8】 【9】 【10】 【11】 【12】 【14】 【19】 【21】 【23】 【24】 【25】 【35】 【38】	—	A	高い地域貢献意識を持って各分野における体制整備や具体的な取組を進めている。	B
		B	人生100年時代のこれからは、それぞれの人生を通じたキャリア計画が重要な時代になる。それを見据えた上での卒業生を含めた地域貢献として、横浜市立大としてのリカレント教育をどのように構築するのか、議論を期待する。	
		B	従来から比較的良好であり、現状も問題ないが、リカレント教育は、市民から他校比較される所であり、少し弱い。	
		B	サテライトキャンパスの活用はさらなる充実が期待される。具体的に地域との協働を推進する仕組みの構築が期待される。	
		B	概ね計画通りと評価できる。	
VII グローバル展開 (p7～56) (横断的項目) 【2】 【9】 【10】 【12】 【14】 【22】 【36】 【42】	—	B	留学生の受け入れの拡大や外国人患者への対応が進みつつあることを評価する。さらに日本人学生の留学や外国人教員の増加を期待する。	B
		B	VUCAの時代において、横浜市立大学の教育、そして社会貢献におけるグローバル展開とはどういうものか、今後の議論を期待する。	
		B	コロナ禍も有り中断したが、従来から良好な項目。企業とのタイアップ施策（スキルアップ、インターンシップ）から新たな施策期待。	
		B	文科省に認定された「YCU-ADVANCE Program」を実施している。	
		B	概ね計画通りと評価できる。	

総 評	教育研究、医療、地域貢献、法人経営にわたる多くの分野について、計画に基づく具体的な取組が着実に進みつつあると評価できる。教育面では、特にデータサイエンスに関する取組が多層的に進められており、大学・高専機能強化事業なども活用してプログラムの拡大・強化が図られることを期待する。
	大学の教育・研究の質の向上を目指した、5学部6研究科による全学的な取り組みは着実に成果をあげており、大いに評価される。また、コロナ感染症の終息後、附属2病院による、高度で質の高い医療の提供を目指す施策も、高く評価できる。法人としても、理事長をトップとする改革推進会議が作られ、学部・研究科のあり方、DX推進プロジェクトなど、重要事項の検討を進める体制が構築され、また理事長直轄の監査室の新設など、ガバナンス強化の面でも進展がみられた。
	中計初年度という事も有り、中計達成の為の基盤作り、インフラ整備、ゆっくりとした年度だった感は否めないが、計画通りに進んでいると思う。財務については、赤字予想できていたにしては、コスト対策、学部別収支改善、取組弱い。具体的施策検討と実施はこれからという項目も相応に有り、今後のスピードに期待。（全体評価B）
	データサイエンス関連、先端医学共同研究拠点、ベンチャー創出、先進医療や地域医療への貢献など、特色があり政策に沿った取り組みの推進と実績がある。全体として計画通りに取り組みが進んでいると判断できる。サテライトキャンパスの活用、地域への貢献には大きな期待があると考え。一方で経常損益が大きな赤字となっており、これが優れた取り組みを阻害することにならないよう、早期の改善が求められる。
	計画を上回って実施している項目もいくつか見られるが、大半の項目については概ね計画通りと評価されるので、全体評価はBが妥当と考える。